

1 1 月報(2022 年) 萌 カトリック福山教会



「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

福山教会活動テーマ：

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【ミサの式次第の変更についての集い】

三原教会 マリア・アスタ石川玲子



10月29日に備後協働体研修会を白浜司教様を講師として「ミサの式次第の変更箇所の確認と解説について」というテーマで開催され、その集いに参加できたことをとても感謝しています。多くの仲間に出会い久しぶりの再会に話も弾み、共に同じ信仰を持つ人々との語らいに喜びを実感しました。

企画、実行に対し、お力を尽くして下さいました皆様に、心からお礼を申し上げたいと思います。

私達は神様が創られた自然の法則の中で一生を終えるのですが、老境に至る現在、私は新しいことに挑戦するには不安と戸惑いもあります。神様にお助けを願い、心新たに前へと歩みを始めたいと思いました。

なぜ変更が必要なのか？日々移り変わる日常の中で、全世界の人々がそれぞれの集団、地域、民族との多様性への正当な価値観の認識を日々の生活の中で判り易く、み言葉と共に生きて行く為の改革が必要となるのでしょうか。

常に感じる思いですが、白浜司教様のお優しい語りかけに心が温かくなるのを感じています。本当に判り易い説明をして下さいました。参加者の受け止め方は一人ひとり異なると思いますが、私はフレデリック神父様運転の車中で分かち合ったことを述べさせて頂きたいと思います。それは、フレデリック神父が「どんな事でも思った事をそのままお伝えすれば良いのですよ。」と言って下さいましたので、その言葉に励まされ、勇気をもってお伝えしたいと思います。

車中の私達の中で一番話題になったことは、「また司祭とともに」の箇所が「またあなたとともに」に変更されると言う箇所です。司祭を「あなた」と呼ぶのですか？違和感がありますと言う意見でした。日本語の感覚では、司祭に対して「あなた」と呼べないでしょう、と言う意見です。車中にはコロンビア出身の方もおられ、「あなた」と言う言葉について、英語、フランス語、スペイン語の表現について話しました。言葉の多様性を改めて感じた処です。

何故、革命が必要なのかということに於いて、私達一人ひとりが最後の日まで新たな出会いに導かれ、希望をもって平和な世の中の建設に携わる事が出来ます様にと新たな機会をお与え下さったのだと思いました。

司教様の解説により、私自身、目から鱗でした。ミサに於いては回りの方がされることに習うだけで、特別深く意味を判ろうとする考えもなく祭儀に参加していました。それぞれの典礼に意味があり、開催から閉祭まで意図的に対話句の配置がされていることに驚きました。

その中で交わりの儀は主の祈り、平和のあいさつ、パンの分割、3つをもって聖体拝領の準備がなされると言うこと。私はそれぞれが独立したものだと思っていました。

イエスの死、(与え尽くす愛・ご聖体)、(聖体拝領・イエスの再臨)イエスの復活・永遠に続く愛。ミサは主イエスの行動である。とおっしゃいました。

派遣の祝福により、日々の生活に向けてイエス様と共に生きて行けます様に。神に感謝

【備後協働体研修会に参加して】

福山教会 大内恭子

10月29日(土)の午後、福山教会聖堂にて、備後協働体合同研修会が行われ、60名ほどの参加がありました。備後協働体に三次教会が加わって初めての研修会でした。2年ぶりの公式訪問で来られた白浜司教さまが、『11月27日からの実施にむけて 新しい「ミサ式次第」の変更箇所の確認と解説』というテーマでお話してくださいました。



ミサの流れや意味、変更箇所について、情熱的に、分かりやすく教えていただいたので、今後、より主体的にミサに与ることができそうです。

感謝の賛歌は、一同で、「聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。」と唱えます。先唱者が、聖なる、と一回唱えて会衆があとに続くのか、それとも聖なる、聖なると二回唱えて会衆があとに続くのか、司教さまと一緒に唱えてみて感触を探りました。先唱者が、聖なる、を三回唱えることもあります。

聖なる神、とはどんな神を思い浮かべますか？と司教さまが問いかけられました。司教さまがかつてそのことについて何人かで話をしたとき、??神父さまがおっしゃって心が震えたという話をしてくださいました。イザヤ書 6.3b、私たちが救うために、私たちに近づいてくる神。神さまは、遠い、私たちからかけ離れた存在ではないということです。

『私をお遣わしになった方の御心とは、私に与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。』今日はこの言葉を考えてみました。

今日は死者の日です。私たちに関わる亡くなったすべての死者を思い、取り次ぎを願うと共に、私たちの「死」について考える日です。

私たちは、誰もがいずれ死を向かえます。避けて通りたいですが、私たちにとって、考えなければならないことの一つです。

私たち、神を信じる者にとって、「死は希望」なのです。しかし、同時に、恐れでもあります。

「死」について考えるのは、本当に苦しいことです。

『私がその人を終わりの日に復活させる。』「死」は、終わりではなく。「希望」なのです。

ここで、第一朗読の、パウロの力強い確信の言葉があります。

『私は確信しています。死も、命も、支配するものも、現在のものも、低いところにいるものも、世のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエズスによって示された神の愛から、私たちを引き離すことはできないのです。』

このすべてを包んでくださるキリストの愛を、私たちは「希望」を持って生きることができると思うのです。

主への信頼を失うことなく、毎日の生活の一瞬一瞬を大切に生きたいですね。

2022. 10. 30 白浜司教公式訪問

～堅信式が行われ、17名の方々が受堅しました～



【教会掃除の見直しについて、皆さん考えてください！】

責任チーム：協働

皆さんは、普段、教会掃除に参加した事がありますか？ 教会を使っている、皆さんの力が重要です。力を貸してください。みんなで力を合わせると小さな手も、大きなパワーになります。

昨年、地区長会議や定例委員会に於いて、話し合いを続けてきましたが、この度、教会掃除を従来の土曜日から日曜日の9:00 ミサ後に見直す方向で話が進んでいます。

なぜ、変えるのか？それは、双方にメリットデメリットあると思いますが、日曜日のミサ後にする事でお手伝いのできる人の可能性が広がる事が大きなねらいです。

新しい教会になる以前から、「自分たちの教会は自分たちの手で掃除をする」という事で、毎週土曜日の10時を原則に8ブロックに分かれ、輪番制で掃除をしてきました。ところが、時の流れと共に、土曜日働く人が多くなり、掃除当番が高齢者、それも限られた人たちによって支えられている事、ここに来てその人数も一人減り二人減りして、地区・ブロックで支える事が大きな負担になっている事があります。また、外国人の方々は、大掃除の時は大きな力になってくださっていますが、普段ミサには参加して教会は使っている、掃除はしていないという現状も見えてきました。

ベトナムの方とお話をしてみると、教会の掃除をする事は大事だと思っているが多くが留学生や実習生で土日働いている人もいますので、お手伝いは難しい。ただ日曜日ミサに参加できる人もいますので、その時ならなんとかかなという事でした。特に第3日曜日の3時のベトナム語ミサの後には、自分たちで掃除をする事も可能だとも言っていました。

そこで、土曜日日本人だけでやっている掃除を日曜日にして、外国人(特にベトナム人)の方々にもお手伝いをお願いする方向で、次のように考え、実施する事で、しばらくやってみようという事になりました。11月12月は、準備説明の期間として、日本の皆さんやベトナムの皆さんに説明し、話し合っ、準備をし、実施するのは来年1月からと考えています。

【考えている方向性】

基本的な考え方 外国人も日本人もみんなが使う教会、みんなで掃除しよう

提案の骨子

- (1) 掃除を介した集いの場での普段の交流の仕方
- (2) 掃除担当の見直し
- (3) 掃除時間の見直し

掃除担当 8ブロック制を維持 *現在の8ブロック+ベトナム人等外国人
*その時、ミサに参加した人に

掃除の曜日&時間 毎週日曜日9時ミサ後 *但し第3日曜日はベトナムの方々
*日曜日にする事で参加可能な幅を広げ、世代交代を図りたい。

時に子どもたちにも参加してほしい

*外国人(特にベトナム人の方々)は、土曜日働いているので日曜日しかできない

掃除区域 大・小聖堂&香部屋、1F2F中央階段&廊下&玄関、1F2Fホール、1F2Fトイレ

*大聖堂を使う行事の際は、調整する

*2F多目的会議室、1F和室、サンルーム、管理人室、2F会計室、厨房は、最終使用者の責任の元で、掃除&片づけをする。

掃除に集まった人々の集い

①簡単な自己紹介 ②祈り ③掃除 ④片付け ⑤茶話会 等

実施への予定

*信者さんたちへの説明会の実施 11月 第1&第3日曜9:00 ミサ後

*ベトナムの人々への説明会 11/20 第3日曜日 15:00 ミサ後

*試行運行 1/8 第2日曜日から

*2023年度4月から 完全移行

注意事項

①ミサ後聖堂内や廊下等で話をしたりしている人たちを追い出すような事になったり、日曜学校等の行事を大きな音を立てたりして、妨げないよう配慮する。

例えば、始めに聖堂に集まり、お祈りしたり、先にお茶をして30分位の猶予の時間を設ける事。

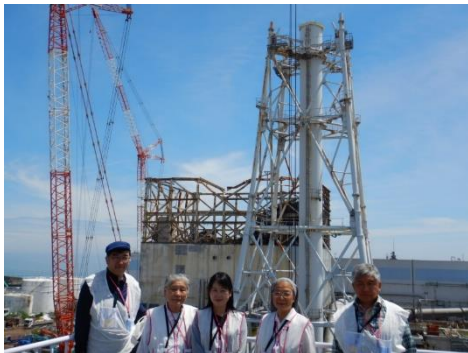
②地区によっては、日曜日よりも前日の土曜日がいいという時もあるかと思うので、それは土日のうちですととして、地区長判断に任せる事にする。

③分かりやすいように、掲示板に今日の掃除は、〇〇ブロックと掲示するようにする。

皆さんの積極的な関わりと共に、関わりの輪が広がっていく事を祈り、願っています。

【南相馬便り④2022年10月】

援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子



月1日に東京電力福島第一原子力発電所の見学をすることができました。東電の主催する見学会が、今年の4月から予定されていたものが、コロナの感染拡大によって3回4回と延期になっていて、もうあきらめて申し込みを撤回したのですが、カリタス南相馬の南原さんから、「東電主催でなく、北海道のKさんから経済産業省の方のついでで視察会が計画されていて、2人分空きがあるよ。ガクタン司教様も参加されるよ」と声をかけてい

ただき、参加させていただきました。（車に乗れる5人が定員でした。ラッキー！）

広大な敷地内を車でぐると回るのは、以前東電主催の視察会（2019年）で見ていたのであまり変わっていないなど、ただ第一号建屋の前で見た線量計の数値がずいぶん下がっているのが印象に残りました。2019年に見た時、単位は忘れましたが、88.??が64.??に減っていました。線量が低くなっているのを見て、少しずつ改善されていることを肌で感じました。



この写真は1号機の建屋の前で、私たちの目の前に線量計がありました。

廃炉作業から出てくる汚染水のトリチウムを除く62種類の放射能（ストロンチウム、セシウム、・・・）を多核種除去設備で除去処理をして、なおかつ水と分離できないために残るトリチウム（三重水素）を含んだ処理水のタンクが敷地内

に所狭しと並んでいます。写真の私たちの大きさと比べて見てください。その大きさを実感しました。このタンクが 1060 基 (1 基 1 億円以上だそうです) 以上たまって、国際原子力委員会 IAEA が無害の承認をしたので、海洋放出を来年春以降に実施に向け準備しています。地元の漁業者や住民の風評被害増幅の懸念による反対の声を押し切って！！住民の理解なしに何もしないと約束しながら！！

それから経産省の案内役の方(元東電の社員で、事故当時のことをよく知っておられる方)、から、5号機建屋に案内していただきました。5号機は爆発した2、3、4号機と同じ大きさ、造りなので、爆発した建屋の中に入ったと同じなのだそうです。



服装はズボンと長袖で来るようにと言われていましたが、5号機の建屋に入るとき、厚手の靴下3足、綿の手袋、ナイロン手袋、軍手それぞれ1組、青いナイロン帽子、ナイロンの防護服1着をナイロン袋に入れて、各部署に入るたびにそれぞれを身に着けることとなります。それぞれの部屋に入るたびに鉛のように思い長靴をはかされて、一番大変な所には靴下3枚重ねてはいて、手袋も3枚重ねて、青いナイロン帽子を着け、防護服を着て、ヘルメットをかぶって入りました。



この写真がそうですが、私たちの頭上にある突起の上は15センチ角4mの長さの燃料棒です。爆発によって私たちがいるところから下へ溶け出した燃料が落ちていったのだそうです。原子炉の底に溶け落ちて、溜まっている燃料デブリを取り出す作業を今、東電はロボットアームを使って必死でやっているわけですが、なかなかうまくできないようです。ほんのひとつまみ取り出して、分析し、どんな容器に保管できるのかどこに置くことができるのか未解決です。



この写真のダイダイ色の丸い穴が溶け出した燃料デブリを取り出すために、ロボットアームを差し込む入り口です。中は線量が非常に高くて、人間が入って作業できる環境でないでロボットに頼らざるを得ません。この廃炉作業のために、日本の最先端技術が駆使されています。ここ浜通りはそういう意味でも日本の研究機関が集中するところとなっていくことでしょう。国際的研究機関を浜通りの居住

不可の地域に建設を予定しているようです。最後に処理水のサンプルを見せてくださいました。私が手に持っている瓶に処理水(62種類以上の放射性物質を取り除いた後のトリチウム汚染水)が入っていて、私たちの目の前で、線量計で測って、全く普通の水と変わらないことを証明して見せてくださいました。処理水は無害だということを認識してもらうための東電と経産省のデモンストレーションということでしょう。

今回は第一原発現場視察の報告でした。

11・12月の行事予定

11月		12月	
1(火)	諸聖人	4(日)	待降節黙想会
2(水)	死者の日	8(木)	無原罪の聖マリア
3(木)	満葉杯中止	18(日)	日曜学校終業式
6(日)	教会墓地ミサ 14時～	24(土)	主の降誕 クリスマス(前晩)
13(日)	七五三のお祝い	25(日)	主の降誕 クリスマス(日中)
21(月)	聖マリアの奉獻	30(土)	聖家族
27(日)	教会大掃除 新ミサ式次第に変更	31(日)	聖時間



聖マリアの奉獻

11月は「死者の月」です。11月が「死者の月」としていつから定着してきたのか定かではありませんが、死者への思いがミサをはじめとする様々な祈りの形で表され、それが広がりを見せ、伝統・習慣となって次第に死者の月になったと考えられているそうです。亡くなられた方が神のみもとで永遠の幸福にあずかることができるように祈ることによって死者を助けるだけでなく、死者がわたしたちのために執り成しをしてくださることを信じているので、教会はキリスト教の初期時代から、死者の記念を深い敬愛の心をもって尊び、死者のための祈願をもささげてきました。皆さん、死者のために祈りましょう。(M.O) 月報委員会